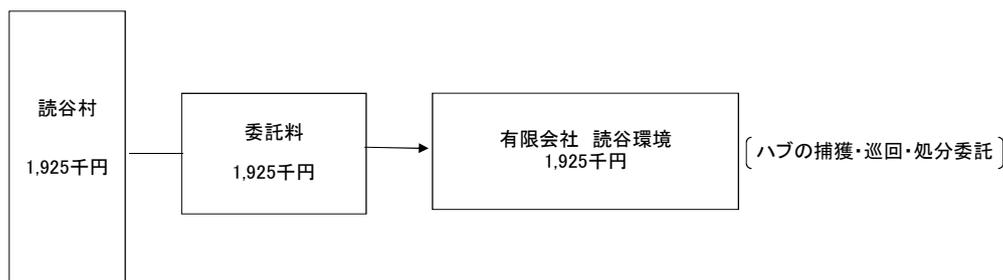


市町村名		読谷村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	危険生物駆除事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア		
担当部署名	総務部 生活環境課	事業実施(予定)年度	平成25~令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	これまで近隣市町村でのみ捕獲された攻撃性の高いタイワンハブの捕獲事例が本村でも発生しており、その蔓延を防ぐためにも早期の駆除活動の強化が必要である。来村する観光客や行楽客、そして村民をハブ咬症から守るため、捕獲器を設置し継続的なハブの捕獲、駆除により個体数を減らすことで、より安全な観光地を目指す。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	7,607	7,677	4,519	3,210	3,210	
	(b) 予算現額	6,048	6,002	3,619	1,925	1,925	
	(c) 増減額(b-a)	▲1,559	▲1,675	▲900	▲1,285	▲1,285	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	6,048	6,002	3,619	1,925	1,925	
	B. 執行済額	6,048	6,002	3,619	1,925	1,925	
	うち交付金充当額	4,838	4,801	2,895	1,540	1,540	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。指名競争入札による入札残分を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	観光地周辺を含む村内各地に、ハブ捕獲器200器設置	目標	(設置)	(設置)	(設置)	(設置)	
		実績	設置完了	設置完了	設置完了	設置完了	
	定期巡回・管理の実施及び処分	目標	(24回)	(24回)	(18回)	(15回)	
		実績	20回	19回	17.9回	16.6回	
	危険周知看板100枚の管理	目標	(100枚)	(100枚)	(100枚)	(100枚)	
		実績	100枚	100枚	100枚	100枚	
	餌用マウスの飼育(繁殖)管理	目標	(1200匹)	(900匹)	(700匹)	(700匹)	
		実績	1200匹	900匹	700匹	700匹	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年5月下旬に委託業務を発注し、ハブ捕獲器200器を設置した。 捕獲するためのエサとなるマウスを飼育し、設置期間における3週間を目途に巡回・捕獲器の管理を行った。 危険周知看板の維持管理を行い、観光客及び村民への啓発に繋げた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	村内におけるハブによる観光客や村民の咬傷被害数:0件	目標	(0件)	(0件)	(0件)	(0件)	()
		実績	/	0件	4件	4件	/
	【参考指標】 捕獲数	目標	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
		実績	/	138匹	138匹	60匹	/
進捗状況説明	前年度と比較すると捕獲数は減少している。咬症被害は前年同様4件発生した。 令和4年度:ハブ類30匹 その他へび類30匹 計60匹 令和3年度:ハブ類77匹 その他へび類61匹 計138匹						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(村内におけるハブによる観光客や村民の咬傷被害数:0件) ・契約期間外における咬傷被害防止や個体数増加抑制のため、毎年度早期着手が必要と考える。 ・今年度の咬傷被害が4件であった。今後咬傷被害を無くしていくためにも引き続き、注意喚起看板の徹底管理を行い、歩行者等へ周知していくことが必要である。	(村内におけるハブによる観光客や村民の咬傷被害数:0件) ・年度当初からの着手を目指し、早期の業者選定、入札執行を図る。 ・事業の概要や読谷村におけるハブ被害の現状について、村HPやFMラジオを通しての周知をさらに高める。 ・エリア毎の捕獲実績数を鑑み、設置箇所及び設置数の再検討を行う。
	今後の取り組み方針	
(村内におけるハブによる観光客や村民の咬傷被害数:0件) ・年度当初に早期着手し、ハブ等の活動が活発になる前に捕獲器を設置し、危険性の除去向上に努める。 ・村のHPや広報誌、FMラジオを活用し、村民及び観光客に対し、危険生物であるハブへの注意喚起を行い、事業の理解と協力を得るために、更なる広報活動を行う。 ・捕獲器の設置及び注意喚起看板の維持管理を行う。定期的な捕獲数の検証を行い、設置箇所の改善等の検討を行う。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,925	1,925	1,540	385	



資金の流 れ、費目・ 点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札方式により決定した。県内実績を勘案し選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模として不用額は、全て入札残であり、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	ヨミタンJOHO県外発信事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部課名	ゆたさむら推進部 商工観光課	事業実施(予定)年度	令和4~令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	読谷村の認知度向上と誘客を目的に読谷村の観光情報ラジオ番組を制作し、全国コミュニティFM番組配信サービスを活用して、県外リスナーや訪れる観光客に対してタビマエ(旅前)での観光情報を発信する。また、番組可聴エリアに赴き番組周知および本村の観光、特産品をPRする。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額						4,888
							4,734
			0	0	0	0	▲154
			0	0	0	0	4,734
						4,418	
						3,534	
	執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	93.3%	
予算の状況の説明	事業は概ね計画通り執行したが、予算減額については、番組制作回数の減及び県外旅費の執行残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	コミュニティFM放送による番組制作・県外への発信	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施(46回)	
	番組及び読谷村の県外PR活動	目標	()	()	()	(実施)	
実績					実施(2回)		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報番組を作成し全国コミュニティFM番組配信サービスを活用した放送を実施することができた。 番組可聴エリアで番組周知および観光PR活動を実施し、読谷村の認知度向上と観光誘客を図った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	ラジオで発信した観光情報(観光地・イベント)への入込客数	目標	()	()	()	(100万人以上)	()
		実績				1,013,900人	
	県外での聴取PR活動人数	目標	()	()	()	(12,000人以上)	()
		実績				5,000人	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報や観光・宿泊施設等を番組内で紹介し、放送後の各施設への入込客数について事業所へ確認し目標人数に至った。 県外PR活動時に商業施設やイベント会場で番組及び観光情報が記載されたチラシを配布したが、チラシ配布人数である目標人数には至らなかった。 						

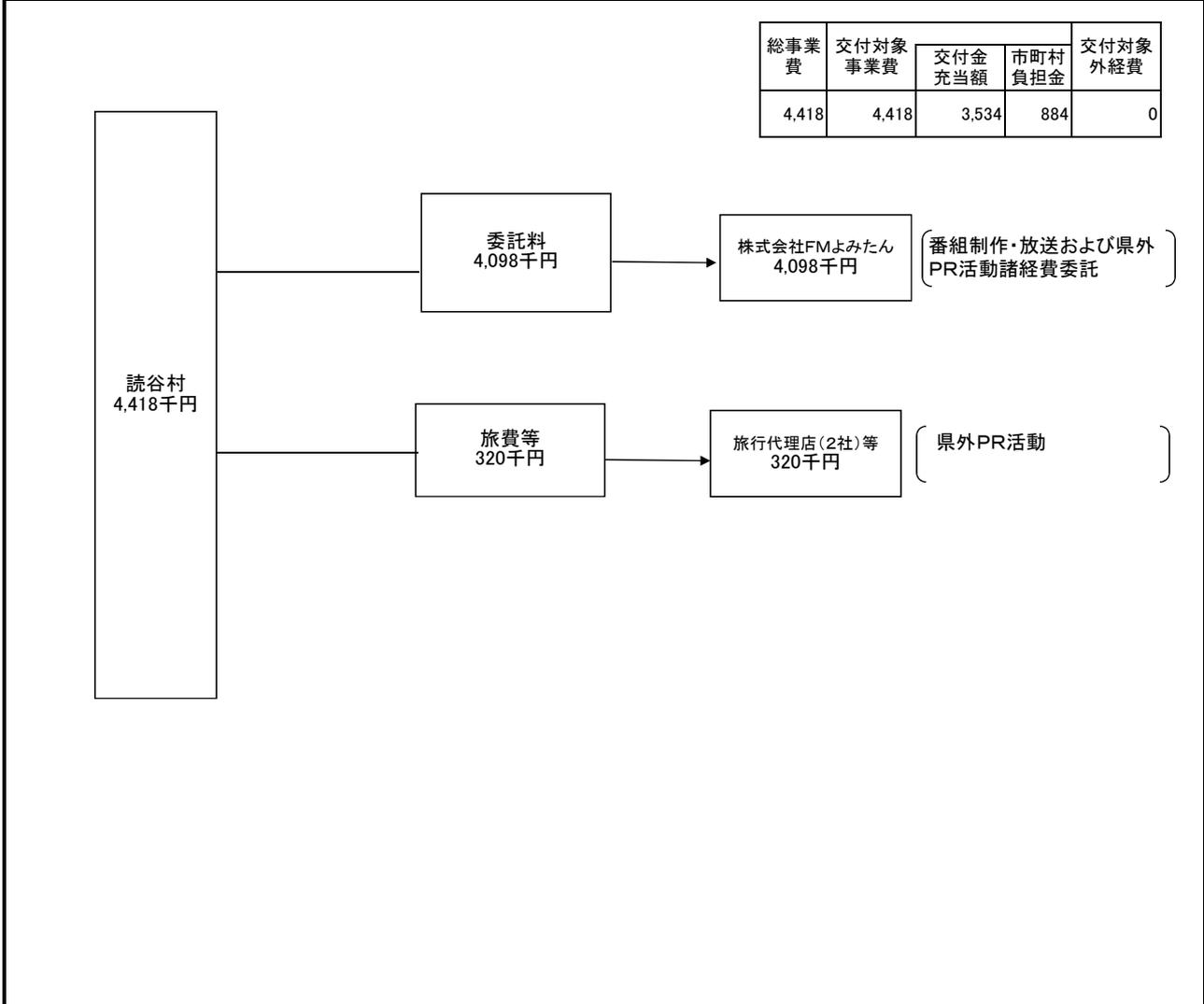
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(ラジオで発信した観光情報(観光地・イベント)への入込客数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 番組で紹介した各施設の放送後の入込客数を調査しているものの一部の事業所から情報を取得することが難しく反映できていない施設もある。 <p>(県外での聴取PR活動人数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行博覧会と商業施設でPR活動を実施したが、商業施設では効果的なPRができず困難な部分があったため、実施場所について検討が必要である。 	<p>(ラジオで発信した観光情報(観光地・イベント)への入込客数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別のイベント等の入込客数調査が困難なため、村が毎年実施している観光施設入込調査(年計)をより広範囲で調査し入込客数の実態を把握する必要がある。 <p>(県外での聴取PR活動人数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地でのPR活動は、ターゲットを明確にしイベントや出展ブースによる旅マエの情報発信としてより効果的な周知活動を計画する必要がある。

今後の取り組み方針

(ラジオで発信した観光情報(観光地・イベント)への入込客数・県外での聴取PR活動人数)

- 引き続き、読谷村の認知度向上と観光誘客を図るため委託事業者と連携をとりながら読谷観光情報を県外へ発信する。ポストコロナの旅行需要の増加を見据え、「タビマエ発信」に重点を置き、選ばれる観光地として事業を取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県内コミュニティ放送局3社からの見積徴取により、読谷村でコミュニティFMを運営するFMよみたんを委託先に選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	読谷村屋内運動場基本設計策定事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア		
担当部課名	教育委員会 生涯学習課	事業実施(予定)年度	令和4年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化		
事業内容	本村のスポーツ振興を図るため村民センター地区(読谷村役場周辺)に新たな運動施設として屋内運動場を整備する。整備にあたり基本設計を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和8年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額					33,550
		(b)予算現額					22,220
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	▲11,330
		(d)繰越額					
	A.計(b+d)	0	0	0	0	22,220	
	B.執行済額					21,445	
	うち交付金充当額					17,156	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	96.5%	
予算の状況の説明	計画通り執行できた。減額は入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	基本設計の策定	目標	()	()	()	(策定)	
		実績				策定	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	読谷村屋内運動場の基本設計を策定した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R8年度)
	基本設計の完了	目標	()	()	()	(完了)	()
		実績				完了	
	【R8成果目標】 年間利用者数	目標	()	()	()	()	(10,000人)
		実績					
進捗状況説明	予定していた基本設計委託業務を完了し、目標を達成した。						

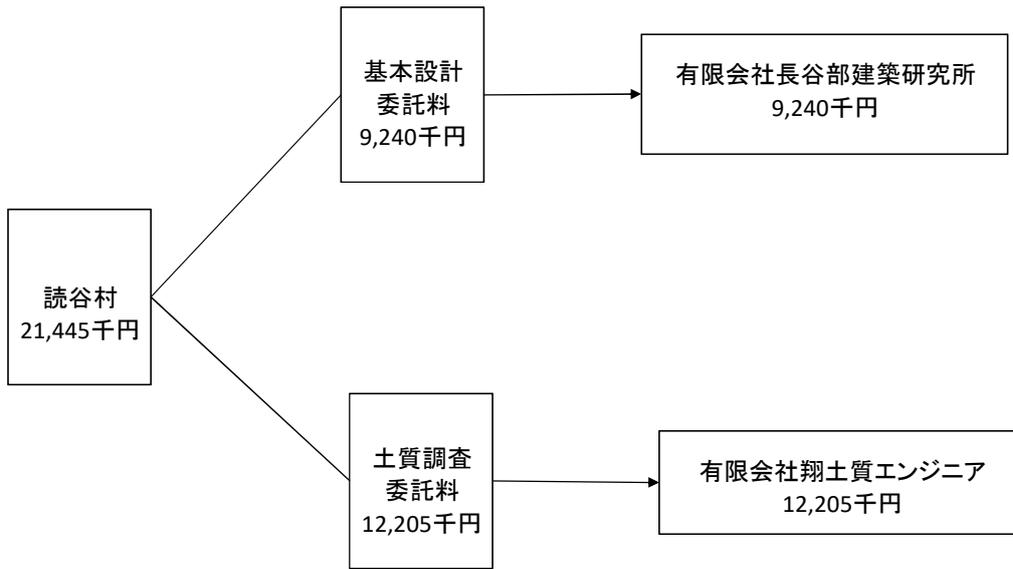
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(基本設計の完了) ・今年度に予定していた基本設計の策定を完了することができた。 ・策定した基本設計を踏まえ、村民センター地区のスポーツ振興に資する屋内運動場の整備に向けて、関係期間との調整及び実施設計を行う必要がある。	(基本設計の完了) ・屋内運動場の建設に向けて令和5年度に実施設計を行う必要がある。

今後の取り組み方針

(基本設計の完了)
 ・屋内運動場の実施設計は令和5年度に行う予定である。実施設計、整備工事については他事業を活用予定のため、屋内運動場の早期建設に向けて、関係機関と調整を引き続き行っていく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
21,445	21,445	17,156	4,289	

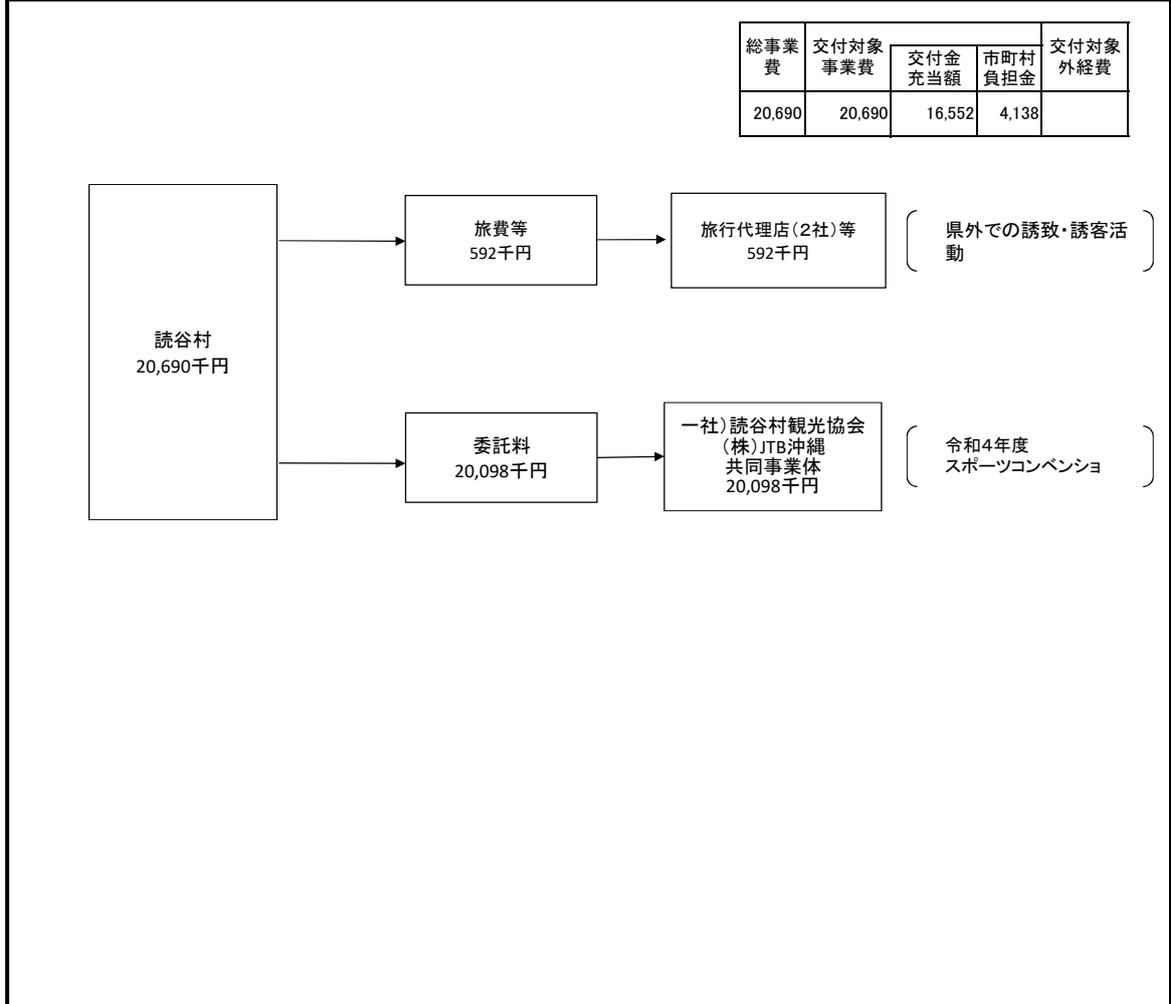


資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については事業目的達成の観点から必要なものであるか、額の確定時において確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		読谷村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	読谷村スポーツコンベンション促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア		
担当部署名	ゆたさむら推進部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24~令和6年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化		
事業内容	スポーツキャンプ等の誘致を促進し、地域への波及効果を高める取り組みを行う。 キャンプチーム本拠地等でファン層に向けた観光・物産(特産品)PRを実施し、観光誘客を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	20,882	21,441	16,278	13,012	25,585	
	(b) 予算現額	19,352	21,441	3,920	7,112	25,585	
	(c) 増減額(b-a)	▲1,530	0	▲12,358	▲5,900	0	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	19,352	21,441	3,920	7,112	25,585	
	B. 執行済額	19,112	20,754	3,920	5,882	20,690	
	うち交付金充当額	15,289	16,602	3,136	4,706	16,552	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	98.8%	96.8%	100.0%	82.7%	80.9%	
予算の状況の説明	キーパーソン招聘やキャンプ実証に関して、各回のキーパーソン招聘者数や実証のキャンプチームの参加人数が当初見込みより減少したため執行残が生じた。 観光・物産PRと誘客活動に関しては、実施回数に達してはいるが実施先(ドーム等)のPR方法のレギュレーション等により、派遣するPR人数を抑制したため執行残が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	各種スポーツキャンプ等誘致活動	目標	(5回)	(4回)	(2回)	(3回)	
		実績	1回	1回	2回	3回	
	キーパーソン招へい	目標	()	()	()	(2団体以上)	
		実績	/	/	/	3団体	
	実証キャンプ支援	目標	()	()	()	(2団体以上)	
		実績	/	/	/	2団体	
	キャンプチーム本拠地等での観光誘客活動	目標	(3回)	(4回)	(3回)	(3回)	
		実績	5回	1回	3回	3回	
キャンプ期間中の集客イベントの実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(1回)		
	実績	実施	実施	実施	1回		
達成状況説明	・3回の誘致活動を実施した。1回あたり2~3団体を訪問、トップセールスを行い実際のキャンプ実施につながる活動となった。 ・3回の誘客活動を実施した。多少は感染症防止によるレギュレーションもあったが、実施内容や方法を工夫し行えた。 ・春季キャンプ時期の村内における観光誘客イベントを計画し実施した。 ・新規競技を誘致するための、キーパーソン招聘を行い、村内の施設・環境をチェックしてもらった。 ・新規競技のキャンプ実証を行い、今後の継続的なキャンプに向けた意見の聴取やキャンプ以外での環境を体感してもらうことでのキャンプ地魅力向上に繋がった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	スポーツコンベンション受入件数	目標	()	(28団体)	(29団体)	(15件以上)	()
		実績	/	8団体	11団体	15件	/
	県外誘客イベントPR観客数	目標	()	(80,000人)	(74,000人)	(30,000人以上)	()
		実績	/	5,690人	28,625人	87,750人	/
	キャンプ期間中の来場者数	目標	()	(35,400人)	(23,700人)	(15,000人以上)	()
		実績	/	0人	3,906人	18,000人	/
	進捗状況説明	・スポーツキャンプ等受入件数については、感染症も収まりつつある中で、誘致活動等の効果も相まって件数の増加(回復)が見られ、目標値に達した。 ・チーム本拠地等での観光物産PR(誘客)活動では、観客入場制限も緩和されたことから、多くのファンの方々やPR隊がコミュニケーションをとりながら、読谷村の魅力を発信でき、目標値にも達した。 ・キャンプ期間中の来場者については、チームによるキャンプ観覧制限の緩和もあり、誘客活動の効果も相まっての増加(回復)が見られ、目標値に達した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(スポーツコンベンション受入件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ実証等については、本村でのキャンプについて実証チームより概ね高い評価を得たが、挙げられた課題等についても検討が必要。 ・メジャー、トップスポーツ以外の多角的なスポーツコンベンションの展開の検討。 <p>(スポーツコンベンション受入件数・県外誘客イベントPR観客数・キャンプ期間中の来場者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県や共に同じ競技、リーグチームを受け入れる他市町村と連携した誘致誘客活動を行う新たな取り組みを実施し、今後の面的なキャンプ受入の連携や検討が必要。 ・感染症の落ち着きなどから、キャンプの実施意向やファン層等の来県・来村が回復してきた。 	<p>(スポーツコンベンション受入件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入する上で不足するトレーニング機材等の諸要望について、関係部署や団体と協議し、受入環境の整備を進めていく。 <p>(スポーツコンベンション受入件数・県外誘客イベントPR観客数・キャンプ期間中の来場者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ実施や誘客回復の機を逃すことがないよう今後もトップセールス等による継続的かつ積極的な誘致誘客活動が必要と考える。 ・キャンプ定着を見込むラグビーは、これまではキャンプ地市町村連携が見られなかったことから、キャンプを面的に受け入れることによる様々な波及効果を考える必要がある。(野球やサッカーキャンプにも共通事項) ・スポーツ施設のみならず自然環境やその他施設を活用するスポーツ(ユニバーサルスポーツ等)のキャンプや大会等イベントの誘致により、スポーツコンベンションの幅を広げ、多種多様な方々を受入することによる様々な波及効果の創出を検討する。
	今後の取り組み方針	
	<p>(スポーツコンベンション受入件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーパーソン招聘やキャンプ等実証により新規及び受入推進競技についてその定着化等を図り、スポーツコンベンションについて本村全体で捉えることができるよう検証していく。 <p>(スポーツコンベンション受入件数・県外誘客イベントPR観客数・キャンプ期間中の来場者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の落ち着きから、徐々にスポーツコンベンション受入件数も増加(回復)傾向にあることから、引き続き誘致活動を積極的に実施し、沖縄県や他市町村との受入の連携による波及効果についても関係機関等と協議を図る。 ・県外誘客イベント等により本村の観光・物産をPRすることを継続する。観光協会SNSやチームとの連携によりファンが読谷村の情報を取得機会を増やし、来村の機会・動機付けに繋がる内容を発信する。また、スポーツコンベンションが幅広く地域活性化に資するための新たな取り組みも企画していく。 	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令第167条の2第1項第2号を根拠とした業務に精通した者との随意契約としており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、事業目標などは概ね達成されているため適正な予算規模であったと考えられる。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途等については、額の確定時において支出などに関する書類により確認、適正であったと考えられる。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		読谷村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ		
担当部課名	教育委員会 学校指導課	事業実施(予定)年度	平成26~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	特別な支援を要する幼児、児童生徒に対応した支援を行うことにより、学校生活や学習上の困難の改善を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	41,161	44,426	49,374	50,467	69,307
		(b) 予算現額	39,864	43,313	49,283	47,914	58,065
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,297	▲ 1,113	▲ 91	▲ 2,553	▲ 11,242
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		39,864	43,313	49,283	47,914	58,065
	B. 執行済額		39,360	43,313	47,153	47,245	55,642
	うち交付金充当額		31,487	34,650	37,721	37,796	44,513
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		98.7%	100.0%	95.7%	98.6%	95.8%
予算の状況の説明		学校によって特別支援教育支援員の入れ変わりが生じ、前歴換算等による報酬決定額の差額及び、幼稚園において支援員の欠員期間が生じたこと等により11,242千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	特別教育支援員配置 幼稚園【5園】:5名	目標	(5 名)	(5 名)	(5 名)	(5 名)	
		実績	5 名	5 名	5 名	4 名	
	特別教育支援員配置 小学校【5校】:10名	目標	(11 名)	(10 名)	(10 名)	(10 名)	
		実績	11 名	10 名	10 名	10 名	
	特別教育支援員配置 中学校【2校】:4名	目標	(3 名)	(4 名)	(4 名)	(4 名)	
		実績	3 名	4 名	4 名	4 名	
	特別支援教育専門指導員 教育委員会:1名	目標	(1 名)	(1 名)	(1 名)	(1 名)	
		実績	1 名	1 名	1 名	1 名	
【参考指標】 特別支援ヘルパー 幼稚園:7名、小学校6名、中学校:1名	目標	(名)	(名)	(名)	(14 名)		
	実績	名	名	名	14 名		
達成状況説明	活動目標である特別支援教育支援員、専門員の配置について、概ね計画通り達成できたことで、要支援幼児・児童生徒への支援体制が構築でき、個々に応じたきめ細やかな支援を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	特別支援教育支援員の支援により困難が改善された割合(80%以上)	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		95%	91%	86%	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	対象となる幼児・児童生徒の保護者に対し、アンケートを実施した結果、学校生活や学習上の困難が改善されたと回答した割合は86%となった。年間を通じた支援員の配置により、個々の支援ニーズに応じた支援内容と支援体制を構築し、継続した支援を行うことで目標を達成することができた。						

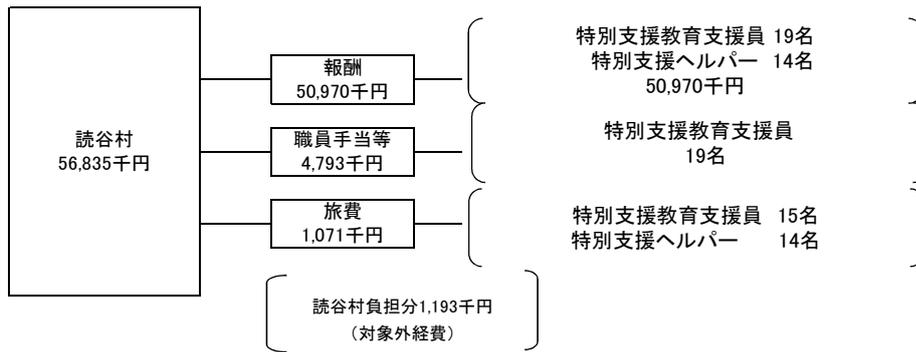
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(特別支援教育支援員の支援により困難が改善された割合(80%以上)) ・支援員を配置することで、対象幼児・児童生徒の個々に応じた支援をすることができた。さらに、特に介助が必要な児童への特別支援ヘルパーを配置することで、対象児童の支援体制の確立することができた。	(特別支援教育支援員の支援により困難が改善された割合(80%以上)) ・障害をもつ幼児・児童生徒が増加していることから現在の支援体制に限界があり、支援員の体制やあり方について検討する必要がある。 ・また、人材確保の観点から、任用資格要件を拡充することについても検討する必要がある。

今後の取り組み方針

(特別支援教育支援員の支援により困難が改善された割合(80%以上))
・今後も継続的に特別支援教育支援員を配置し、対象幼児・児童生徒への支援を行うとともに、障害のニーズに応じた支援員(特別支援教育支援員、特別支援ヘルパー、特別支援看護師ヘルパー)の配置を検討する。また、支援員、ヘルパーの人材確保の観点から、任用時の資格要件を拡充することについても検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
56,835	55,642	44,513	11,129	1,193



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則及び要綱により予算規模を決定しており、適切な規模であった。 ○費目・使途は、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

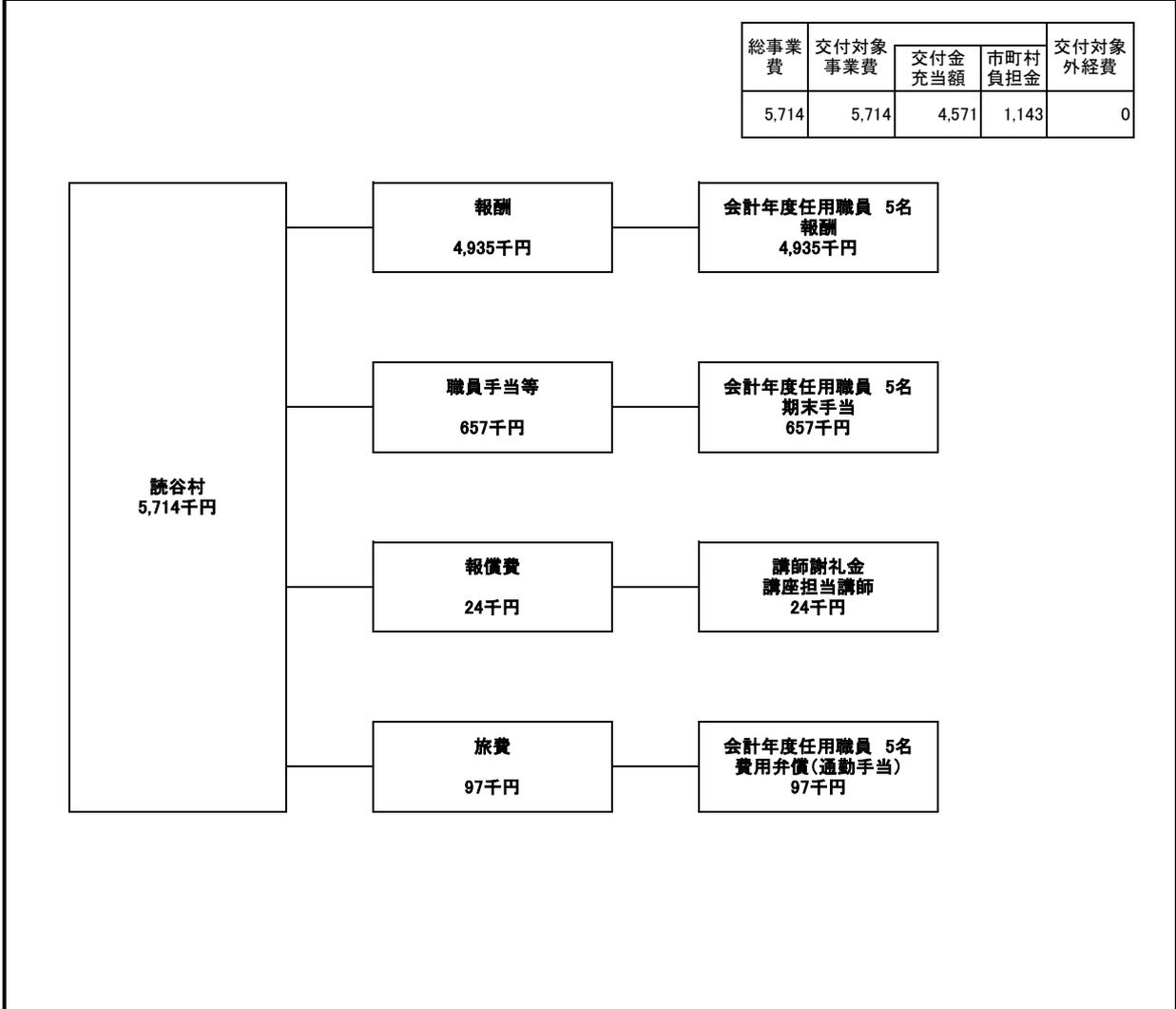
市町村名		読谷村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	沖縄語(しまくとぅば)保存継承事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア 沖縄文化の継承・発展・普及	
担当部署名	教育委員会 文化振興課	事業実施(予定)年度	平成25~令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(3)		
事業内容	現在では日常生活で会話することも少なくなった沖縄語の保存継承に寄与するため、身近な生活の中で語られてきた沖縄語をわかりやすく学び、親しむためのデータベースを拡充し、普及活動を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,260	10,000	7,000	7,000	6,500
		(b) 予算現額	7,436	10,350	7,170	7,000	6,091
		(c) 増減額(b-a)	1,176	350	170	0	▲409
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		7,436	10,350	7,170	7,000	6,091
	B. 執行済額		7,436	9,518	6,892	6,998	5,714
	うち交付金充当額		5,948	7,614	5,512	5,598	4,571
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	92.0%	96.1%	100.0%	93.8%
予算の状況の説明		データベース(HP)の構築、拡充を委託から直接実施に変更したため委託料409千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	沖縄語データベース(単語・民話・音声)の追記	目標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績		実施	実施	実施	
	沖縄語データベース(単語・民話・音声)の公開	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
【参考指標】 しまくとぅば講座実施回数	目標	()	()	()	()		
	実績				約20回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成、公開のデータベース(HP)「読谷村しまくとぅば単語帳」に、単語約300語、音声約1,000件、画像約400件を追加・公開した。また、意味・説明の追記、修正を約7,000語行った。 ・公開件数:単語約14,300語、音声データ4,100件、画像データ400点 ・これまでの事業成果を活用し、地域の児童らを中心とした普及活動にも注力。しまくとぅば講座を約20回開催した。講座延べ受講者総数743人。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	HP(データベース)アクセス数	目標	()	(800件)	(800件)	(800件)	()
		実績		1,113件	5,646件	50,665件	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・HP(しまくとぅば関連データベース)アクセス数(令和4年4月~令和5年3月):総アクセス数50,665件(内「しまくとぅば単語帳」部分42,505件)となっており、目標値を上回っている。 ・村広報誌にて、本事業内でのこれまでの成果から抜粋した記事を隔月連載する他、展示、講座を実施、実施内容をYouTubeにて公開し普及活動に努めた。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(HP(データベース)アクセス数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄語の表記にまだ統一見解がなく、当初単語帳公開にあたっては、無理に統一せずに調査や資料によって各々の表記を利用してきた。今年度は読谷村のしまくとぅばを公開していく上での暫定的な表記方法を概ね確定させ、データベースに反映した。 ・新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かいつつあることで対面での講座開催を拡充させる一方、コロナ禍で取り組んできた映像配信なども普及活動として継続していく。 	<p>(HP(データベース)アクセス数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP上のデータベースに民話や童謡、音声、用例、画像などのさらなる拡充を目指す。 ・しまくとぅば単語帳(語彙データベース)に関しては、沖縄語としての体系的説明も考慮する必要がある。そのため言語学者など有識者からのヒアリング、検討会議が必要。 ・これまで本事業内にてしまくとぅば普及啓発のための種々の成果物を作成し、講座内でそれら資料を活用してきたが、今後は、それら資料の具体的な活用方法など、指導者を養成する視点からの資料作成、講座開催を検討したい。また具体的に言語復興で効果をあげているハワイなどの先進事例、体系的学習事例を学び、取り入れることで本事業の効果向上に活かすことも検討している。

今後の取り組み方針

<p>(HP(データベース)アクセス数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ(しまくとぅばデータベース)のコンテンツを拡充し、より魅力的なサイト構築に取り組む。 ・沖縄語(しまくとぅば)学習に寄与するためHPコンテンツ「読谷村しまくとぅば単語帳」を発展させ、体系的な単語集(辞典)を発刊する。 ・村広報誌等での周知、普及のほか、これまでの成果、蓄積を活用し、村内各地域団体、学童、保育所、学校等での沖縄語(しまくとぅば)講座を実施する。 ・しまくとぅばの日(9月18日)に併せたユンタンザミュージアムでの企画展・講座を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則及び要綱により予算規模を決定しており、適切な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		読谷村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	歴史資料の整理活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア		
担当部課名	教育委員会 文化振興課	事業実施(予定)年度	令和4～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及 Ⅲ-3-(3)		
事業内容	<p>沖縄戦を境として、米軍統治を経た沖縄戦後史の実相を理解することができる歴史資料が本村には多く存在する。また本村は、これまで地域史の継承を意図し、多岐にわたる史資料を収集、蓄積してきた。沖縄や本村に特徴的な歴史を後世に継承していくため、これら種々の歴史資料や歴史公文書等を順次調査し、整理・保存・公開を行う。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和6年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	(a) 当初予算額					1,011
		(b) 予算現額					927
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 84
		(d) 繰越額					0
		A. 計(b+d)	0	0	0	0	927
	B. 執行済額					884	
	うち交付金充当額					707	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	95.4%
予算の状況の説明	会計年度任用職員の期末手当支給が対象外となったため、職員手当等84千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	貴重な歴史公文書等の整理	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	<p>村史編集室が所蔵する歴史資料のうち優先度の高い貴重な歴史公文書等より整理、目録化を実施。元読谷村長より寄贈された資料群(復帰以前資料が中心)を次年度のデジタル化実施に向け、資料の評価選別、デジタル化する資料簿冊、ページ数を確定、目録化した。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R6年度)	
		目標	()	()	()	(一部完了)	()
	実績				一部完了		
	【R6成果目標】 読谷村の歴史、文化への理解が深まったとする回答割合	目標	()	()	()	()	(80%以上)
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 元読谷村長(任期1962～70年)から寄贈された資料群(主には1950～70年代資料、文書、日誌、図書等)を整理、目録化。資料の評価選別を行い、特に貴重な資料は、令和5年度にデジタル化し、資料原本は保存に適した状態に整理する(委託業務)。 上記資料群の整理状況は以下の通り。簿冊数530点。デジタル化(スキャン枚数)予定約27,000枚。 村史編集室所蔵図書・資料の整理。令和5年度の整理方針を検討、確認。 令和5年度HP公開に向け、これまで発行された読谷村広報誌の目録化データを確認。 これまで発行された読谷村議会報の収蔵状況を確認。今後デジタル化、OCRをかけたテキスト化を検討する。 						

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(貴重な歴史公文書等の整理一部完了)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史資料の整理を行う村史編集室に多くの資料が収蔵されるが、作業スペースが限られているため、効率的な作業方法、順序を検討する必要がある。また資料数が膨大なため、貴重性あるいは汎用性が高い資料から優先的に作業を進める必要がある。 著作権や個人情報に十分注意し、資料の公開を行う。 	<p>(貴重な歴史公文書等の整理一部完了)</p> <ul style="list-style-type: none"> 整理された資料に関しては、その資料の特徴などを村民、利用者向けに展示や講座、広報などで解説し、本事業と歴史資料の重要性などを周知する活動にも注力していく。

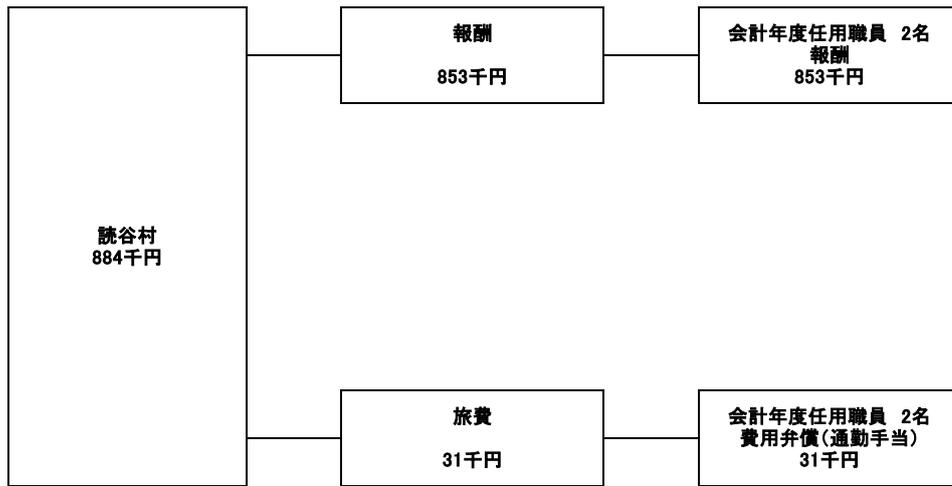
今後の取り組み方針

(貴重な歴史公文書等の整理一部完了)

- 当方は村史編集室所蔵資料の整理を優先的に進め、中間目標として令和7年度供用開始予定の(仮称)読谷村総合情報センター(村史編集室は同センター内へ移転)での所蔵資料の保管、閲覧、レファレンスに寄与する。
- 整理作業の過程で貴重資料あるいは資料の閲覧需要が見込まれると位置づけられた資料のデジタル化や公開を順次行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
884	884	707	177	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則及び要綱により予算規模を決定しており、適切な規模であった。 ○費目・使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		読谷村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-① 読谷村工芸品県外プロモーション戦略事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-1-(4)-エ		
	担当部署名	ゆたさむら推進部 商工観光課		事業実施(予定)年度	平成26~令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	伝統工芸の振興
事業内容		1978年に策定した「ヤチムンの邑(むら)」基本構想により、村づくりにおいてヤチムン(琉球陶器)の振興を推進してきた。今後のヤチムンの持続的発展を目指し、県外マーケットにおいてマーケティングやプロモーションを行うとともに、販路拡大や人材育成に取り組んでいく。また、併せて村内工芸品である読谷山花織・琉球ガラスの販路拡大を図っていく。					
	効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)					
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	9,992	8,434	4,989	4,733	4,069
		(b)予算現額	6,610	4,894	2,949	2,772	3,278
		(c)増減額(b-a)	▲3,382	▲3,540	▲2,040	▲1,961	▲791
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		6,610	4,894	2,949	2,772	3,278
	B. 執行済額		6,214	4,681	2,131	2,772	3,072
	うち交付金充当額		4,931	3,744	1,682	2,218	2,457
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		94.0%	95.6%	72.3%	100.0%	93.7%
予算の状況の説明		当初予定していた出店先ではなかったため、搬入搬出、借料などの支出が少なくなったこと及びパンフレット増刷を多くしなかったことなどがあり、-791千円の減額とした。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	県外プロモーション出典・調整及びテストマーケティング	目標	(2回)	(1回)	(3回)	(2回)	
		実績	2回	0回	3回	2回	
	観光客向け県内プロモーション	目標	(3回)	(3回)	(3回)	(4回)	
		実績	3回	1回	1回	3回	
周知用媒体ツール(琉球ガラス・ヤチムン冊子、パンフレット)の作成	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
	実績	実施	実施	実施	実施		
達成状況説明		・テストマーケティングとしてOnland Craft Market2023への出展販売とセレクトショップ(cotogoto)にて展示販売企画を行った。 ・「読谷WEBやちむん市」、「やちむんと工芸市」、「読谷やちむん市」にてプロモーションは行えたが、「陶器市」は中止となってしまったため、3回にとどまった。 ・ヤチムンの冊子、パンフレットは継続して増刷できた。今年新たに村内の琉球ガラス工房の情報をまとめた「よみたん琉球ガラスMAP」を印刷することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	陶器市の来場者数	目標	()	(14,589人)	(14,776人)	(14,776人)	()
		実績		-	-	-	
	物産売上金額	目標	()	()	(73,400円)	(72,750円)	()
		実績			70,800円	85,160円	
	展示会商談数	目標	()	()	(17件)	(25件)	()
実績				47件	-		
【参考指標】WEBヤチムン市アクセス数		目標	()	()	()	()	
実績			5,535件	13,598件	18,883件		
進捗状況説明		・12月開催予定であった陶器市は、開催中止となったため、来場者数は計測不能となった。 ・物産展は東京にてOnland Craft Market2022に出展し、体験と商品販売を合わせて85,160円売上げることができた。 ・新型コロナウイルス感染症による影響が変化したことにより、作品生産で多忙となったため、商談展示会へ参加できる工房がいなかった。その代替で行ったセレクトショップでの展示販売企画で400,773円売上げることができた。 ・WEBヤチムン市(9/23~10/9)へのアクセス数は、18,883件で、昨年度の約1.4倍となった。内訳は約87%が県外在住の方で、約13%が県内在住の方となった。					

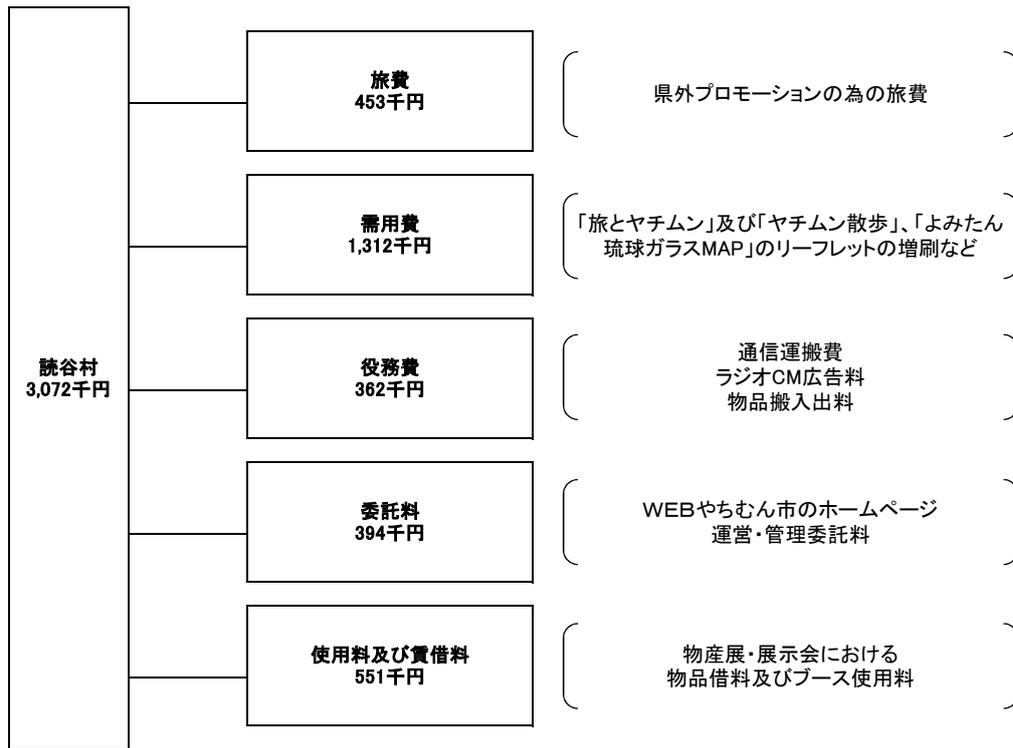
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(物産売上金額・展示会商談数) ・当初は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、卸、注文が減少しているという話もあり、商談会(見本市)への出展を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症による外出や入店などの規制緩和、取引店舗がネット販売を始めるなどの状況変化により、取引が回復し作品生産で多忙となったため、実施内容の変更を行うこととなった。	(物産売上金額・WEBヤチムン市アクセス数) 令和4年度は工芸品のニーズが回復傾向にある。物産展及びWEBヤチムン市にてPRすることで現地消費の増加に繋がるのではないかと考える。また、消費者にアンケートを実施し、商品ニーズや情報キャッチの手法などの回答をまとめた資料を作成し、工房に提供することで生産、情報発信などの運営強化に役立ててもらおう。
	(【参考指標】WEBヤチムン市アクセス数) ・観光客の入域も増加しているため、WEBやちむん市のニーズもそれに伴い、少し下がってきたように感じる。 ・次年度の結果を踏まえ、WEBやちむん市の今後の実施は検討しても良いかと考える。ニーズに沿ってないと尻すぼみになり得る。	(物産売上金額・展示会商談数) ・新型コロナウイルス感染症の影響で県外に同行する工房がここ数年いかなかったが、今回2工房の参加があり、工房スタッフの経験値や直接ニーズを感じる機会を作れたので継続して工房スタッフの参加推進を行う。

今後の取り組み方針

(物産売上金額・展示会商談数)
・新型コロナウイルス感染症による規制が緩和され、観光入込客数も回復傾向に見られるので、現地消費を促すためのPRにも努める必要がある。
・令和4年度に行ったセレクトショップでの展示販売企画は売上、日数、認知度向上の観点からも良好であったため、次年度も同様の企画が実施できるようにセレクトショップや百貨店などにアプローチする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,072	3,072	2,457	615	0



資金の流 れ点 検 評 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○「旅とヤチムン」、「ヤチムン散歩」印刷製本費については、パンフレット制作時に携わった組版、写真権を持っている業者に依頼しているため、支出先の選定は妥当であると考えている。 ○当初予定していた出店先ではなかったため、搬入搬出、借料などの支出が少なくなったが、その他は適正だったと考える。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであるかについて、支出先に関する書類により確認しているため適正であると考えている。

市町村名		読谷村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	瀬名波通信施設跡地(非農用地部分)実施設計策定事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-ア 駐留軍用地跡地の特性を生かした効果的な跡地利用の推進	
担当部署名	ゆたさむら推進部 農地活用推進課	事業実施(予定)年度	令和3~令和5年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	III-8	
事業内容	瀬名波通信施設跡地は、農用地と非農用地に分け土地利用を計画しているが、農用地部分の整備は県営土地改良事業で実施されるものの、住宅用地等になる非農用地部分の整備は補助対象外となっている。農用地と非農用地部分とは用途は異なるものの換地計画は県営土地改良事業の業務で行うことから、非農用地部分の詳細な計画(設計)が必要であるため設計段階から一体的な地区形成として取り組むため、非農用地部分の実施設計を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a)当初予算額				29,414	40,161	
	(b)予算現額				28,050	39,600	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	▲1,364	▲561	
	(d)繰越額						
	A.計(b+d)	0	0	0	28,050	39,600	
	B.執行済額				28,050	39,600	
	うち交付金充当額				22,440	31,680	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	計画通りに執行できた。561千円の減額は委託の入札残の減によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	非農用地部分の基本設計委託業務の実施	目標	()	()	(実施)	()	
		実績			実施		
	非農用地部分の実施設計委託業務の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
達成状況説明	令和4年度実施設計委託業務を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R8年度)
	基本設計の完了	目標	()	()	(完了)	()	()
		実績			完了		
	令和4年度実施設計の完了	目標	()	()	()	(完了)	()
		実績				完了	
	県営土地改良事業及び関係機関との整備や換地計画に向けた調整	目標	()	()	()	(実施)	()
		実績				実施	
	農用地(土地改良事業)と非農用地の一体的整備方法等の検討	目標	()	()	()	(実施)	()
		実績				実施	
	進捗状況説明	予定していた実施設計委託業務を完了し、目標を達成した。また、換地計画に向けた調整も行うことができ、土地利用計画を進めることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(令和4年度実施設計の完了) ・R4年度に予定していた実施設計(北エリア)を完了することができた。 (県営土地改良事業及び関係機関との整備や換地計画に向けた調整) ・引き続き非農用地の一体的整備促進に向けて、関係機関との調整及び南エリアの実施設計を行う必要がある。	(令和4年度実施設計の完了) ・非農用地整備実現に向けて南エリアの実施設計を行う必要がある。

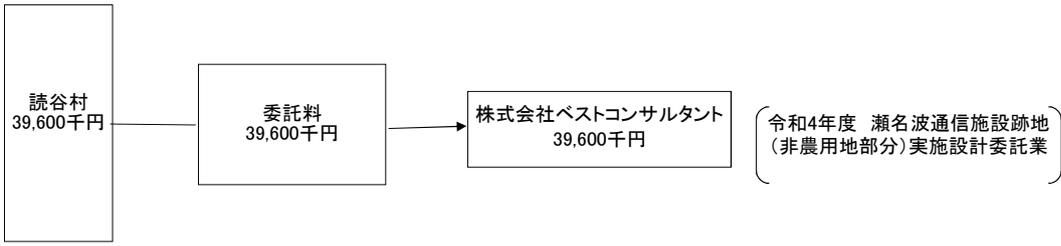
今後の取り組み方針

(令和4年度実施設計の完了)
 ・R5に南エリアの実施設計を行う予定である。

(県営土地改良事業及び関係機関との整備や換地計画に向けた調整)
 ・農用地と非農用地の一体的土地利用計画については、土地改良事業の事業主体である沖縄県と常に調整を行う。非農用地の整備については、引き続き整備実現に向け、工事施工できる手法を模索続ける。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
39,600	39,600	31,680	7,920	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものであるか、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	